

令和3年度日本武道学会 剣道専門分科会企画 講演会
Division of Kendo, Japanese Academy of BUDO



若手トップランナーの最先端研究に学ぶ
自他共栄の科学を目指して
～運動、武道、そしてeスポーツへ～



演者 筑波大学体育系助教 **松井 崇 氏**

日時 令和3年 **9月6日**(月)～**12日**(日)

方法 **オンデマンド形式**

剣道専門分科会HPに講演動画を公開



第54回日本武道学会全国大会期間中に剣道専門分科会企画として講演会を開催致します。本講演では、卓越した若手研究者である松井崇氏に最新研究の動向や方法そして考え方などをご紹介します。

大会期間中に剣道専門分科会HP(<http://www.budo.ac/kendo/>)に講演の動画を公開いたします。会員の皆様には8月中旬に動画視聴のためのパスワードを郵送でお知らせいたします。会員以外で参加をご希望される方は、事務局(奥村: okumura@u-gakugei.ac.jp)までお問い合わせください。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

<http://www.budo.ac/kendo/>

日本武道学会第54回大会 剣道専門分科会企画 講演会
オンデマンド形式：令和2年9月6日（月）～12日（日）動画公開

若手トップランナーの最先端研究に学ぶ
「自他共栄の科学を目指して：運動，武道，そしてeスポーツへ」

講師 筑波大学体育系助教 松井 崇 氏

「精力善用自他共栄」。言うまでもなく、嘉納治五郎師範が提唱した極めて学際的といえる柔道の神髄である。哲学者ロラン・バルトは、「真の学際性は、1つのテーマを選びそのまわりに2、3の諸科学を集めるだけでは不十分で、どの学問領域にも属さない新しい対象を生み出すところにある」という。

私は二流柔道家としての競技生活を送った。競技につきものである疲労の正体を暴き、なんとか克服できないか。その思いひとつで学生時代から動物実験に取り組み、ポストク時代に細胞実験を取り入れ、今はそこに進化生物学的視点も盛り込みながら、運動疲労要因としての脳グリコーゲンの役割とそれを踏まえた疲労予防策を究明する「スポーツ神経生物学」を進めている。これは「精力善用の科学」であるといえよう。

現職では新たに、柔道のハイパフォーマンスに役立てようと「柔道生理学」を開始し、今は武道による共感性等の教育効果に生化学で迫る「自他共栄の科学」に挑戦中である。加えて、「バーチャルスポーツ」としてインクルーシブに取り組めるeスポーツが柔道や武道の教育効果をどこまで再現するのかにも興味が尽きない。

神経科学の父であるラモニ・カハールは、脳細胞を顕微鏡で観察する傍ら、天体望遠鏡で宇宙の星々を見つめ、この世界と人間の構造と機能に思いを馳せたという。一見無関係なものになぜか惹かれる。そうしたところで学際性は生まれるのかもしれない。武道学並びに体育学には、昔も今もこれからも、学際的な挑戦の場であり続けて欲しい。

※ 標記の期間に剣道専門分科会 HP (<http://www.budo.ac/kendo/>) に講演の動画を公開いたします。分科会会員の方には参加方法を別途お知らせいたします。

会員以外で聴講をご希望の方は、剣道専門分科会事務局（奥村：okumura@u-gakugei.ac.jp）へお問い合わせください。